



# Café

# ふれあい新聞

## ふれあい25周年!

これからもよろしくお願ひします

春爛漫といつた今日この頃ですが年度当初皆様もお忙しくお過ごしのことと存じます。カフェふれあいが障害者の働く場として開店してから早25年が経過しました。

昨年度はコロナウィルスの感染拡大ということに、年度のはじめは本当に客足が伸びず、苦勞しました。後半は宮城県など自治体とのコラボ企画が功を奏し、徐々にお客様も増えてきています。これも、足を運んでくださっている皆様のおかげと感謝申し上げます。

今回、透明のアクリル板を区にご用意いただき、より感染対策にも力を注いでいます。

今度も皆様に喜んでいただけるよう努力して参りますのでどうぞよろしくお願ひいたします。

### 開店当初から勤続しているMさんへのインタビュー



Mさん

- Q:ふれあいに勤めることになったきっかけはなんですか？  
 A:当時、フレンドシップで下請け作業をしていたんだけど、稼げる仕事を何かしたいと思って。医師には反対されたけど自分から希望して働き始めました。
- Q:当時のふれあいの様子はどんな感じでしたか？  
 A:最初は20人くらい雇用されていて、1日3時間交代で勤務していました。店は毎日10時から19時までで結構お客様はきてくれていたと思います。でも、途中からお客さんが減ってきて…。従業員が3人、1日の売り上げが5000円以下になったこともあって、辞めようかなと思った時に、同じ障害当事者の今の店長がきて、今まで勤め続けてきた。
- Q:今のふれあいについてどう思いますか？  
 A:喫茶店からカフェレストランになって、弁当、フードを出すようになった。お客さんも増えて安心して働ける。
- Q:ふれあいにのぞむことはありますか？  
 A:みんなが辞めないで元気で勤め続けられればいいと思う。



—Mさん、ありがとうございました。

### 多様な人達との出会いと共働を大切に

社会福祉法人豊芯会 顧問 上野容子


1995年、豊島区のご支援を得て、精神疾患を抱え就労の機会を奪われていた人達が働く場を得ることができました。区内の青空作業所、フレンドシップ、当会の三事業所の共同経営。「カフェふれあい」のスタートでした。コーヒー店で有名な南千住にある「バッハ」とご縁ができ、田口社長がバッハ店員の崎山さんをふれあい店長として派遣してくださり、バッハのコーヒを味わえる店としてふれあい創設期の基礎を築いてくれました。崎山さんは、現在山梨県でご自分の店を構えており、いつもふれあいを気にかけて下さっていると聞いています。近々改めて感謝の気持ちをお伝えしに山梨に行きたいと思っています。2007年から当会が単独運営することになり、「caféふれあい」として今日に至ります。店長を務める斎藤健さん始め皆さんが真摯に一生懸命励んでおります。昨年、広報や観光関係部署と連携し、宮城県や栃木県那珂川町の生産物や地元の商品を生産者として献立に取り入れお客様に提供することができ好評をいただいております。これからも様々な出会いが生まれる店として一層精進してまいりますのでご愛顧のほどよろしくお願い申し上げます。

発行年月日  
2021年5月6日  
 発行人 岩崎香  
 ふれあいのみんな

ホームページもぜひ、ご覧ください



**ふれあいポイント2倍デー**  
**5月28日(金)**  
**Drinkテイクアウトも実施中!**  
**新しいドリンクメニュー**  
**青い紅茶、バターフライピー登場!**



当面の間、平日9時~17時(ラストオーダー16時半)の営業とさせていただきます。

TEL **3980-5020** (9時~17時)  
 FAX 3980-5021  
 注文・メニュー問い合わせ 専用アドレス  
**new.fureai@gmail.com**